

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04450

研究課題名(和文) 学習集団の組織による学力形成 日本における協同的な学びの系譜

研究課題名(英文) Developing children's ability by organizing a learning group: traditional Japanese education

研究代表者

吉村 敏之 (YOSHIMURA, Toshiyuki)

宮城教育大学・大学院教育学研究科高度教職実践専攻・教授

研究者番号：80261642

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：今日の教育で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、日本の授業研究の財産をふまえ、教師の指導を支える原理と方法を探った。群馬県島小学校の教師、船戸咲子は、一人の「まちがい」を教材の本質に迫る学級の問題へと高める授業を創った。山梨県巨摩中学校の教師、埴原美枝子は、どの生徒も表現力を培える合唱の授業を展開した。二つの事例は、個が伸びる学習集団の組織によって学力が養われる事実の証である。学習集団を組織する教師に必要な力を、三つ示した。科学と芸術に根ざして教材を深く追求する力、子どもの中に潜む学習の可能性をとらえる眼力、子ども一人ひとりの思考や表現を結びつけて学習の質を高める力である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「主体的・対話的で深い学び」を創る原理と方法を探るために、日本の教師がこれまで実践した授業の成果を検討した点に、本研究の特徴がある。個が伸びる学習集団の組織、学習集団による質の高い教材の追求、教材の本質への接近による思考力と表現力の育成。この三つが「深い学び」の成立の要であることを明らかにした。育成すべき子どもの姿を明確にし、追求が深まる教材の選択が大切である事実を、二つの事例により確認した。「未来につながる学力」を培った、群馬県島小学校の「授業の創造」(1952年～1963年)と、「科学と芸術の基礎」を養う授業にむけた、山梨県巨摩中学校の教育内容研究(1964年～1975年)が、標となる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to explore the principle and method of 'active learning'. By focusing on the heritage of lesson studies in Japan, I examine two cases: (1) classroom management by Ms. FUNATO Sakiko at Shima elementary school (Gunma prefecture), (2) chorus lessons by Ms. HANIHARA Mieko at Koma junior high school (Yamanashi prefecture). Both teachers organized learning group which develops student's individuality. This study shows teacher's abilities which are indispensable for guidance on 'active learning'. Three points are as follows. (1) pursuing subject matter on the basis of science and art, (2) seeing signs of children's eager to learn, (3) improving the quality of learning by connecting problems of students.

研究分野：教育方法学

キーワード：学習集団 協同学習 独自学習 表現力 深い学び 島小学校 船戸咲子 巨摩中学校

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究の意義を、(1)教育方法史研究への寄与と(2)教師教育への示唆との二点から示す。(1)1950年代に群馬県島小学校で展開された「授業の創造」の底流には、校長の斎藤喜博が1930年代に玉村小学校で取り組んだ実践の蓄積がある。島小学校で重視された芸術教育が1970年代に発展する。その事実を示す資料が宮城教育大学に集められている。政策やイデオロギーから見ると、先の戦争の前後での「断絶」が強調されるのに対し、教師たちによる実践の「持続」に注目する。実践の中でも、子ども個々の思考を尊重し、多様な価値観を含み込んで、教材を追求する「学習集団」の組織の系譜をたどる。学力の形成にとっての「学習集団」の重要性を示す。(2)「主体的・対話的で深い学び」を創る教師の力量形成が求められる今日、学習集団の組織が教師の指導力向上の要となる事実を示す。学力の中で重視される「思考力・判断力・表現力」を培う教師の指導力形成のあり方を解明する。拠り所として、1930～70年代日本の公立小学校で実績をあげた教師の事例を検討する。さらに授業記録を活用した教師教育の方策も試行する。

2. 研究の目的

日本の教師たちが取り組んだ、学習集団の組織による学力形成の系譜をたどり、実践の意義を示す(教育方法史研究)。さらに、本研究で収集する記録を活用し、教師の指導力を高める方策を試行する(教師教育)。1930年代に「集団主義教育」を実践した小学校教師、1950年代に群馬県島小学校で「未来につながる学力」を養った教師集団、1970年代に「表現力」を培った山梨県巨摩中学校と群馬県東小学校の教師に注目する。次の三点に力を入れた。(1)1930年代に日本各地で創られた実践が、1970年代の授業研究を促す底流であった事実を示す。(2)学習集団の組織によって形成された学力の内容と特質を明らかにし、今日の実践の指針とする。(3)資料として収集した記録を用い、「主体的・対話的で深い学び」を創る指導力を教師に養う方策を探る。

3. 研究の方法

1930年代『教育論叢』誌上で展開された「集団主義教育」に端を発し、玉村小学校、1950年代の島小学校、1970年代の東小学校と巨摩中学校へと連なる、日本の協同的な学びの系譜をたどる。事例の検討をふまえ、次の三点の解明に力を入れた。(1)1930年代玉村小学校と1950年代島小学校とを貫く、授業の原理と方法。(2)1950年代の島小学校で実践された「表現力」の形成が1970年代に継承・発展した事例の特質。(3)学習集団の組織によって形成される学力の質。

4. 研究成果

主たる成果は、(1)1930年代から1970年代までの、学習集団を組織する実践の系譜を明示、(2)形成された学力の特質を解明、(3)学習集団を組織する指導の要点を解明、の三点である。

(1)1930年に群馬県玉村小学校で教職の道を歩み始めた、斎藤喜博は、すべての子どもが自己を伸ばす努力をする「劣生のいない学級」づくりに努めた。「皇国民錬成」と称して形式的訓練が行われた戦時体制下でも、学習指導に力を注いだ。その際、競争を退け、子どもどうしが力を合わせて問題を追求する学級にした。「生活」集団にとどまらず「学習」集団として組織された学級で、学力が養われたのである。1952年に島小学校長となった斎藤は、学級全体で問題を深く追求する授業の組織を、11年間にわたって推進した。玉村小学校での実践が継承され、発展された。斎藤のもとで、子ども、教師、父母が「学校集団」として「授業の創造」に取り組む姿にふれた、山梨県巨摩中学校の教師たちは、1960年代から70年代にかけて、学習集団を組織する。

(2)戦時下の全体主義の風潮の中でも、斎藤は、子ども一人ひとりが「自己を育てる」教育を進めた。型に従う訓練を排し、問題を追求する学習により、自分で判断して行動できる力を育んだ。島小学校では、教材を「人類の文化遺産」ととらえ、文学、芸術、科学の本質に迫る授業により、子ども一人ひとりの可能性が引き出された。絵画、合唱、舞踊など表現活動が重視され、「美しい」子どもの育成が目指された。巨摩中学校の教師たちは、校則で縛る生活指導を止め、「科学・芸術の基礎」を培う教科学習の創造に尽力した。点数で測る試験を廃止し、生徒が各自の学習の成果を記したレポートで評価した。合唱による表現が、すべての教科を総合する学習とされた。

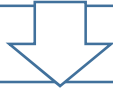
(3)一人のまちがいを学級全体の問題として追求する授業が、斎藤によって、玉村小学校で組織され、島小学校に継承された。子ども一人ひとりの学習の道筋をとらえ、考えを結びつけて学級一丸となって追求する問題へと発展させる授業を、船戸咲子が先導して創った。どの子もまちがいを恐れずに自分の考えを出し、互いの考えを高め合える学習集団が組織された。一人ひとりが自分の考えを持ち、他の子と交流しながら、追求を深める「独自学習」が重視された。巨摩中学校で合唱を指導した埴原美枝子は、生徒一人ひとりの声を活かしつつ響き合う表現に高めた。心を解放して意欲を引き出し、歌詞の解釈と楽譜の分析により、思考を深め、表現の質を追求した。個が伸びる学習集団を組織する力、集団で深く追求できる教材を創る力が、教師に必要である。先に示した三つの研究成果について、その要点を図示すると、以下のとおりである。

(1)一人ひとりが自己変革できる学習集団を組織する実践 1930年代～1970年代の系譜

群馬県玉村小学校「学習指導法研究」1930～1943年
斎藤喜博「劣生のいない学級」: どの子ども「自己を育てる」
「生活」+「学習」集団として組織された学級



群馬県島小学校「授業の創造」1952～1963年
斎藤喜博校長:「未来につながる学力」を養う授業
子ども、教師、父母の「学校集団」による「自己変革」



山梨県巨摩中学校「教育内容の研究」1964～1976年
教師集団:遠山啓など民間教育研究運動の成果に学ぶ
「人間」として成長し続ける基礎を培う生徒集団の組織

(2)自己を表現する力が発揮される学力の形成にむけた授業 教える内容と学ぶ方法の研究

「人間」として個が育つ教育:表現活動の充実による表現力形成

島小学校

「人類の文化遺産」としての教材
文学、芸術、科学の本質に迫る授業
絵画、合唱、舞踊などの表現活動
「花のひらいたような」子ども

巨摩中学校

「科学・芸術の基礎」を培う教科学習
すべての教科の「総合」としての合唱
作文、美術、演劇などの表現活動
個性の発揮と協同性の育成

(3)一人ひとりの心の解放と学習への集中を促す教師の指導力 教材を追求する集団の組織:

教師に求められる力:個が伸びる学習集団を組織する力

教材を深く追求する力+一人ひとりの学習をとらえる力

島小学校

船戸咲子:一人のまちがいを学級全体の
問題として追求する授業の組織
自分の考えと他人の考えを交流しながら
問題の追求を深める「独自学習」の重視

巨摩中学校

埴原美枝子:一人ひとりの声をいかし
ハーモニーを創る合唱活動
楽曲について、音の構造を楽譜で分析
歌詞の解釈を文学や歴史の知識で深化

船戸咲子学級の「独自学習」

全員で一つの問題を追求する船戸学級



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 吉村 敏之	4. 巻 54
2. 論文標題 「総合的な学習」における「探究」を促す学習集団の組織 船戸咲子学級の事実から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮城教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 417-424
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://id.nii.ac.jp/1138/00000842/	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉村 敏之	4. 巻 1
2. 論文標題 教師の成長を支える実践記録 群馬県玉村小学校・島小学校の事実	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育実践資料研究	6. 最初と最後の頁 15-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 吉村 敏之	4. 巻 第53巻
2. 論文標題 船戸咲子の授業の展開を支えた教材解釈 - 5年生「走れメロス」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 宮城教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 341-347
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://id.nii.ac.jp/1138/00000789/	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 吉村 敏之	4. 巻 52
2. 論文標題 船戸咲子学級における「深い学び」 学習集団による解釈の深化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 宮城教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 349-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://id.nii.ac.jp/1138/00000668/	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鈴木美佐緒・金田裕子	4. 巻 25
2. 論文標題 子どもの思いと教師の願いから生み出される探究のプロセス	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 せいかつ&そうごう（日本生活科・総合的学習教育学会誌）	6. 最初と最後の頁 18-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉村 敏之	4. 巻 第51巻
2. 論文標題 船戸咲子による学習集団の組織 「独自学習」の充実	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宮城教育大学紀要	6. 最初と最後の頁 209-216
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://id.nii.ac.jp/1138/00000518/	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 吉村 敏之
2. 発表標題 船戸咲子学級の「学習の基盤」形成 個が育つ集団
3. 学会等名 日本教育学会第78回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉村敏之・埴原美枝子・本田伊克・本間明信
2. 発表標題 「科学・芸術の基礎」を学ぶ授業の創造 巨摩中学校の教育
3. 学会等名 日本教育学会第78回大会 ラウンドテーブル
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金田 裕子
2. 発表標題 協同的な学習における会話フロア間の関係の検討
3. 学会等名 日本質的心理学会第16回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉村敏之・金田裕子・本田伊克・本間明信
2. 発表標題 「教授学」の構築 宮城教育大学の「教育臨床研究」
3. 学会等名 日本教育学会第77回大会 ラウンドテーブル
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉村 敏之
2. 発表標題 個が育つ授業づくりと教師力の向上を目指して
3. 学会等名 日本個性化教育学会第11回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉村 敏之
2. 発表標題 船戸咲子による学級の組織 「さかえちゃん式まちがい」の生まれた集団
3. 学会等名 日本教育学会第76回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉村敏之・金田裕子・江間史明・守屋淳
2. 発表標題 授業が「見える」 何をどのように
3. 学会等名 日本教育学会第76回大会<ラウンドテーブル>
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 金田 裕子
2. 発表標題 教室の知的権威の関係における学習課題の機能
3. 学会等名 日本教育学会第76回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉村敏之・金田裕子・江間史明・澤田稔
2. 発表標題 授業を記録すること 方法と意義 ラウンドテーブル
3. 学会等名 日本教育学会第75回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉村 敏之
2. 発表標題 学習集団の組織過程 船戸咲子の授業
3. 学会等名 日本教育学会第75回大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	金田 裕子 (KANETA Yuko) (30367726)	宮城教育大学・大学院教育学研究科高度教職実践専攻・准教授 (11302)	